

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

経営者に必要な構想力 永守 重信 (日本電産会長兼社長)

1. M&Aは特にそうだが、企業経営は構想力である。頭の中に絵を描いて、ジグソーパズルのように1つずつ埋めていく。事業を拡大したり、スクラップをしたりする時に最もダメなのはこの「絵」もなくして、飛びつくように始めてしまうことだ。
2. 自社の領域とは離れた島のように見えても、それを買収したら次は、間をつなぐ橋のような技術を買う。あるいは自前で作る。橋ができたら、周囲を少しずつ埋め立てていく。橋の両側を埋め立てられれば、下は内海になる。後は水をかき出すだけで、大きな陸地、つまり広い市場を対象にした事業が出来上がるというわけだ。そこまでの構想を描けなかったら、新事業に取り組んではいけない。繰り返したが、重要なのはそこだ。
3. すると「都合よく橋になったり、橋の両側を埋める土に当たる企業を次に買収するのか」とも言われる。そこで大事なことが2つある。一つは「諦めること」。そしてもう一つは「諦めないこと」だ。「諦めること」とは、自分のパズル(構想)を埋めていくピースが見つからなければいったん諦める。そうでなければ、ムダな投資ばかりを生んでしまう。
4. だが、完全に諦めてもいけない。パズルは常に頭の中に置き、どうやればピースが手に入るか、間を埋めることができるかを考え続ける。そして、その努力を続けることだ。不透明な時代だからこそ経営者には構想力が必要になる。そして「諦め」ながら、「諦めない」自在さも必須になる。

(参考:「日経ビジネス」2015年1月5日号)

経営者のための理念・哲学

淡々と着実に為すべきことを実行する

牛尾 治朗 (ウシオ電機会長)

1. いまリーダーに求められているのは、この困難な状況を前向きに捉え、チャレンジする姿勢を堅持し続ける以外にありません。「莊子」に「將らず、迎えず、応じて、而して蔵めず」という言葉があります。過去を追わず、将来に取り越し苦勞をせず、その時機に応じて適切な措置を取り、その結果は淡々と受け止めて心に留めない指導力です。
2. 過去に囚われ、将来を憂えているばかりでは事態は好転しません。当面の変化にはその都度的確に対応し、しかもいつまでもそこに留まることなく、速やかに次に備える。要は各々が基本に立ち返り、淡々と着実に為すべきことを実行していくことこそが、いまは一番大事だと私は考えます。

(参考:「致知」:2015年3月号)

ワンポイント経営アドバイス

新商品を提供し顧客に応える

鈴木 敏文 (セブン&アイ・ホールディングス会長)

1. 消費は、すでに飽和している状態です。過去の経験や考え方が通用しなくなっています。「値段が安くすれば売れる」という時代ではないということです。新しい技術や商品を創出できなかった企業は、消費増税でダメージを受けた状態が続くだろうとみています。独自の商品を作れなければ、苦戦することは間違いないでしょう。
2. これだけ長い間デフレが続いたことで、皆、消費に対して慎重になっています。「同じ商品ならば要りません」と。でも、消費者の心理として、何か新しいものを手に入れたいという気持ちに変わりはありませんから、それに応えられるかどうかです。今までにない商品を提供できている企業は伸びますが、安さを強調しているところはマイナスになっています。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2014年12月27日・2015年1月3日号)

古典に学ぶ

風に乗る術 (その1)

(解説) 列子は老聃先生に師事し、伯高氏を兄弟子として、道を学んだ。十分会得すると風に乗って帰ってきた。これをきいた尹生は列子の弟子になった。数カ月間、列子について、自分の家に帰らなかった。おりをみては風に乗る術の教えを乞うた。だが、十度きいても教えてくれない。尹生はあまりくやしいので、暇をとることにした。列子はとめもしなかった。(続く)

(参考:奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」:徳間書店)